

# 汐風を食べてみませんか。

山の恵みが汐風とともに、海の恵みとなってやってきました

## 地域ガイド誕生！

3月10日(火)、地域ガイド認定試験が行われました。

第3期ふるさと観光講座(平成20年5月～平成20年9月)そして地域ガイド養成短期集中講座(平成21年1月～平成21年3月)を経て、昨年の33名に続き新たに5名の地域ガイドが誕生しました。地域ガイドに認定された皆さんには、南三陸時間旅行サポートセンターが主催する各種ツアーなどで、地域の魅力を伝えるガイドとして、活躍していただきます。今回認定試験で出題された問題は、南三陸町観光協会のホームページからご覧いただけます。ぜひみなさんも挑戦してください！



## 南三陸エコツアーマスター養成講座・受講生募集！

南三陸町観光協会では、「地域の魅力を楽しむこと」と「環境保全」の両立が前提の活動である「エコツアー」の導入により、地域資源を活かした新しいツーリズムの確立を目指しています。

そこで、エコツアーのガイド・体験活動の指導者として活躍できる人材の育成を行い、将来的に地域独自のツアーを開催できる体制の整備を図ります。プログラムの全てを修了した受講生は、観光協会が「南三陸エコツアーマスター」として認定し、南三陸時間旅行サポートセンターが主催する各種ツアーなどで、インストラクター(指導者)として活躍していただきます。

環境保全と地域資源、そしてアウトドア活動に興味のある方は、ぜひサポートセンターまで問い合わせください。

	プログラム内容	開催日	時間
第1プログラム	(講義) 天気・海況を読む	5月9日(土)	午後1時から3時
	(実技) 磯観察ツアー	5月9日(土)、10日(日)、23日(土)、24日(日)のうち1日	午前8時から昼12時
第2プログラム	(講義) 安全な体験活動の進め方	6月6日(土)	午前10時から昼12時
	(実技) 救急救命講習	6月6日(土)	午後1時から3時
第3プログラム	(講義) 「環境」=「エコ」ですか？	7月4日(土)	午前10時から昼12時
	(実技) シーカヤック	7月4日(土)	午後1時から3時
第4プログラム	(講義) 「循環」を考えてみよう！	7月25日(土)	午後1時から3時
	(実技) スノーケリング	7月24日(金)、25日(土)、26日(日)のうち1日	午前10時から昼12時
第5プログラム	(講義) 活動プログラムの作り方		日程調整中
	(実技) MAREプログラム体験会		日程調整中
第6プログラム	(演習) 地域発のプログラム・教材を作ってみよう！		日程調整中

※講座の日程については、都合により変更することがあります。

### <応募資格>

- ①健康で、スノーケリングやシーカヤックなどの野外での活動に興味のある20歳以上の方。
- ②全てのプログラムに、積極的に参加していただける方。

### <その他>

受講料：無料(プログラムによっては、1,000円程度の実費相当額をいただくことがあります。)

研修会場：自然環境活用センター(戸倉字坂本、☎46-9109)

申込み期限：4月30日(木)まで

申込み方法：申込み用紙に必要事項を記入の上、南三陸町観光協会まで申し込みください。

申込み用紙：随時配布(設置箇所：産業振興課・自然環境活用センター・各公民館)

問い合わせ：南三陸町観光協会 ☎47-2550 FAX 47-2160



# 庄内の風 ③1

友好町の山形県庄内町を紹介する情報コーナー

## 映画「おくりびと」 祝! アカデミー賞外国語映画賞受賞

庄内地方を舞台とした映画「おくりびと」が第81回アカデミー賞において外国語映画賞を受賞しました。映画の世界に触れようと、県内外から多くの観光客がロケ地に足を運び、一気に熱を帯びた「おくりびと」ブームで、庄内地方は大いに沸き返って



います。

撮影に協力したNPO法人「酒田ロケーションボックス」が発行し、駅などで無料配布された「庄内地域映画ロケ地マップ」も人気を集めています。このマップを見れば庄内一円に散在する映画のロケ地が一目で分かります

庄内町のJR余目駅4番ホームでは、広末涼子さんが実家に帰るシーンが撮影されました。撮影の際には地元業者が鳥海山から雪を運ぶなど協力をしました。

このような素晴らしい映画の舞台となった庄内に訪れ、映画の世界を存分に体感してはいかがでしょうか。

※他にも「蝉しぐれ」や「ICHI」など話題の映画が立谷沢地区でロケを行っています。



## 夢大使 リレー通信 ③3

各地で活躍する南三陸町夢大使の皆さんの声をお届けする「夢大使リレー通信」を連載しています。今回は、美容師で作家としても活躍している佐藤啓さんです。

## お墓とゴミと

### 夢大使

佐藤 啓さん  
(静岡県伊東市)



人はなぜ墓をつくるのだろうか？

誰もがこの世に在った日々を永遠に忘れないで…と石に名を刻む。それが墓だ。しかし、残念ながらそれでも人はすぐに忘れる。去る者は日に以って…の言葉のように、墓石が苔むす前に死者はみな生者の記憶の遥かとおく、忘却の彼方へと消え去ってゆく。それでいい。人は忘れる生きモノだから。

生命は、それを維持する為に必ずモノを喰う。

ご飯、パン、魚、肉、野菜に果物。これらの食ベモノも、つい今しがたまで私たちと同じように生きて在った命。

「食ベモノ」は「生きモノ」であり、「生きモノ」は「生きモノ」を「喰うモノ」なのだ。

が、どうも近頃、この認識が人間界では怪しくなっている。文明が死を遠ざけ隠してしまったのが原因だ。老人は病院で死に、家庭では鶏をシメルことはおろか、魚をさばくことすらも見かけない。生きることは他の命を奪って喰うこと。自分のこの命は、他の命を借りて生かされることを改めて教わる必要が出てきた。

そして、この借りた命はいつの日かきちんと還すべき日がくることも。

借りた命とはこの身体、肉体のこと。自然界はみなこの貸借がとてもスムーズで、なによりどこにもムダがなく美しい。

これが命の輪(サイクル)だが、私たち人間だけがここから外れている。外れて還さないばかりか遺体は燃やされ、さらに大気を汚す。まるで借入書を燃やして借金を踏み倒すような行為だが、火葬はこの国の法律である。それなりの理由があつて定めたとしてもこれは明らかに間違っている。

「自分は燃やされたくないなあ…死んでまでも空を汚したり…」父の葬儀で、青空に立ちのぼる黒煙を見てつくづくそう思った。

ウチの庭には歴代のペットたちが眠る。そこに植えた花樹たちは、毎年春には見事な花をつける。

「ボン太やミー太、レオが咲かせてくれたんだ」こんな説明に、幼かった息子たちも素直にうなずいた。春には花、夏には涼しい木陰、秋にはたわわな果実と紅葉の美しい公園。もちろん墓石はなし(石屋さんゴメン)。そんな土に、私はこの身を還したい。火葬はよそう。埋葬して樹を植えよう。それが借りた命を返すことだ。私は墓をつくらない。墓とゴミをつくるのは人間だけ。そういつも考える。

追記：完成時、あんなに喜んで父のお墓の隣は水汲場。大雄寺の「ゴミ置場にあらず！」の立札も何のその。何度片付けてもゴミの山。これがあなたのお墓だったらどうします？ゴミはちゃんと持ち帰りましょうね。